

目 次

はしがき

第Ⅰ部 離別と親子関係、紛争と葛藤

専門領域の異なるアプローチ

第1章	家族関係の紛争・葛藤への多様なアプローチ …… 高橋睦子	2
	——「三つの惑星モデル」からの問題提起	
	はじめに ……………	2
	1 専門家集団のハビトゥス ……………	2
	2 「三つの惑星モデル」——イギリスの経験をふまえて ……………	4
	3 日本への示唆 ……………	10
第2章	子どもの主体的な声を聴くこと …………… 平井正三	15
	——臨床心理学の関わり方	
	はじめに ……………	15
	1 子どもの心の内面に接近する専門性 ……………	15
	——子どもの精神分析的心理療法	
	2 観察とコミュニケーションの専門性を活かした司法領域での実践 ……	19
	3 心理学の知見を活かす ……………	30
	おわりに ……………	34
第3章	家族の葛藤と子どもの心と脳の発達 …………… 友田明美	36
	はじめに ……………	36
	1 性的虐待による脳への影響 ……………	38
	2 暴言虐待による脳への影響 ……………	39
	3 厳格体罰による脳への影響 ……………	41
	4 両親間のDV目撃による脳への影響 ……………	42
	5 被虐待と脳発達の感受性期との関係 ……………	43
	6 被虐待児の心のケアの重要性 ……………	44
	7 「生態的表現型」という疾患概念 ……………	46

第4章	両親の「不協和音」が乳幼児の愛着形成に及ぼす影響 渡辺久子	48
1	子どもと大人の世界と「間主観性」.....	48
2	子どもが「甘え」られないことの意味.....	50
3	愛着や発達に関する問題——赤ちゃん部屋のおぼけ.....	52
4	言葉を得る前の身体的・感覚的記憶が心の芯を作っていく.....	53
5	発達性トラウマ障害と世代間伝達.....	55
6	父母の紛争への司法のかかわりと子どもへの影響.....	55
	おわりに——子どもを守るのは本物の専門性.....	56

第Ⅱ部 日本の子どもと家族法

子どもの視点からみた法制度の問題点

第5章	離婚後の子の養育..... 小川富之	60
	——欧米先進工業諸国の対応を手掛かりとして	
	はじめに——子の最善の利益に沿った離婚後の子の養育の実現.....	60
1	諸外国における別居・離婚後の子の養育について.....	63
2	日本の制度を考えるうえで必要なことは.....	71
	おわりに.....	74
第6章	離婚当事者の非対称性と子の処遇..... 立石直子	78
	はじめに.....	78
1	離婚法における白地規定性.....	79
2	離婚当事者とは誰か.....	80
3	DVの子どもへの影響.....	82
4	離婚後の子の処遇をめぐる留意すべき点——面会の問題を中心に.....	84
	おわりに.....	85
第7章	離婚後の親子——司法実務の動向..... 吉田容子	87
	はじめに.....	87
1	親権と監護権.....	88
2	子連れ別居.....	91
3	監護者指定と子の引き渡し——裁判所の判断基準.....	96
4	子の引き渡しの強制執行.....	103

第8章	司法における面会交流の現実	可児康則	106
	はじめに		106
	1 面会交流を巡る司法の現状		107
	2 司法は、離婚で傷ついた子どもを幸せにしているか		113
	3 子どもを害さない別居親との交流のために必要なこと		120
	おわりに		125

第Ⅲ部 離別後の親子関係の理想と現実

共同養育についての議論とオーストラリアからの示唆

第9章	離別後の共同養育はだれの利益か	鈴木隆文	128
	はじめに		128
	1 法律上の「父」とは誰であるべきか？——「父親」概念を疑う		129
	2 離別後の共同養育は誰に望ましいのか？		139
	3 ドメスティック・バイオレンスと共同養育		146
	4 共同養育の議論において無視される養育の質		158
	おわりに		159

第10章	オーストラリアの家族法をめぐる近年の動向		
	——日本は何を学べるか		
	……………リサ・ヤング（監訳：高橋睦子、立石直子）		163
	はじめに		163
	1 オーストラリアの家族法の歴史的経緯および憲法との関係		164
	2 2006年連邦家族法改正と現在の法制度		168
	3 2006年連邦家族法改正の影響		174
	4 2012年連邦家族法改正		186
	5 リロケーションと共同養育に関する法改正		189
	6 共同監護が養育費に及ぼす影響		192
	おわりに——オーストラリアからの示唆		193